

焼き芋の車を追いて孫を負い橋を渡りき遠くはるけし

(R)

大石田の紅葉・・・

紅葉の季節が始まりました。町の中央を流れる最上川の西側にダークブルーの葉山の山頂が見え、その裾野にほんのりと染まった紅葉の山々が広がります。日当たりがよく発色が鮮やかに見えます。最近ではウルシの赤い葉が少なくなりました。町登録文化財の三か所の眺望は絶景です。

町中では、お寺や学校の銀杏の黄色や街路樹の桜の朱色が目立ちます。消防署の裏側には赤い蔦の絡まる針葉樹があり、クリスマスツリーを思わせます。蔦紅葉は、本町の交差点の辺りにも見られます。愛宕山の参道では、色とりどりの明るいモミジとお稲荷様が出迎えてくれます。静かな小道ですが、町営駐車場近くの「いこいの家」の所から階段を登ると、タイムスリップしたような風景に出会えます。個々のお稲荷様たちはその昔、大きな商家の守り神でした。

この辺りでは庭先に柿の木がある家も多く、庄内柿といわれる平種柿や木ざわしといわれる甘柿、美濃柿も見かけます。寒くなると色づきも良くなり、紅葉に彩りを添えます。また、柿の紅葉は近くで見ると、葉の一枚一枚が違っていて、侘びさびを思わせる美しいものです。霜が当たると甘くなる茶色の豆子柿はもう見なくなりました。

・・・

霜始めて降る(しもはじめてふる)

10月23日~27日頃

毎年秋になると、最上川を秋鮭が遡上してきます。“よのこまま”は、昔はどこの家でも作って食べていました。魚屋さんの店先に「よのこまま始めました」を見つけると一度は食べたくなります。鮭の煮汁で炊いた新米は香ばしく、ほぐし身を混ぜ、上にイクラをたっぷり。秋らしい美味しいご飯です。(み)

曇時施す(しぐれときどきほどこす)

10月28日~11月1日頃

揺れもせず枯薄群が目立つ。昔は秋の収穫後はそがき(雪囲い)用に山畑の辺りから茅を刈り、それで家のそがきをした。春、解体した茅は茅葺屋根用に利用した。芹を摘んでいると、白い物。農作業からの解放感。私の雪迎え、天からの手紙。大変な事もあるけれど結構楽しみな冬籠りでもあった。(熊谷ヨエ子)

楓蔦黄なり(もみじつたきなり)

11月2日~6日頃

この頃になりますと、大石田は、冬の準備に大忙しです。そがき(雪囲い)は、家屋だけでなく、庭木も必要なので、大変な労力であります。

また、畑から収穫した越冬野菜を漬物にします。大根、青菜、かぶを漬け込み、とつぷりと長い冬に備えます。

(と)



2014.10.24 旧大石田一中プール跡より

読書会だより⑥

大石田の霜降のころ

七十二候より

大石田町立図書館

川霧はモノトーンの色彩を生み出し、遠い異国を思わせます。小平博之さんの写真集「齋藤茂吉『白き山』と最上川」では大石田の四季が魅力的です。朝霧が立ちこめるようになると、紅葉は日に日に鮮やかに染まっていきます。この時期、野菜や果物の甘みも増しておいしくなります。のこりわずかな秋の陽光を楽しみましょう。